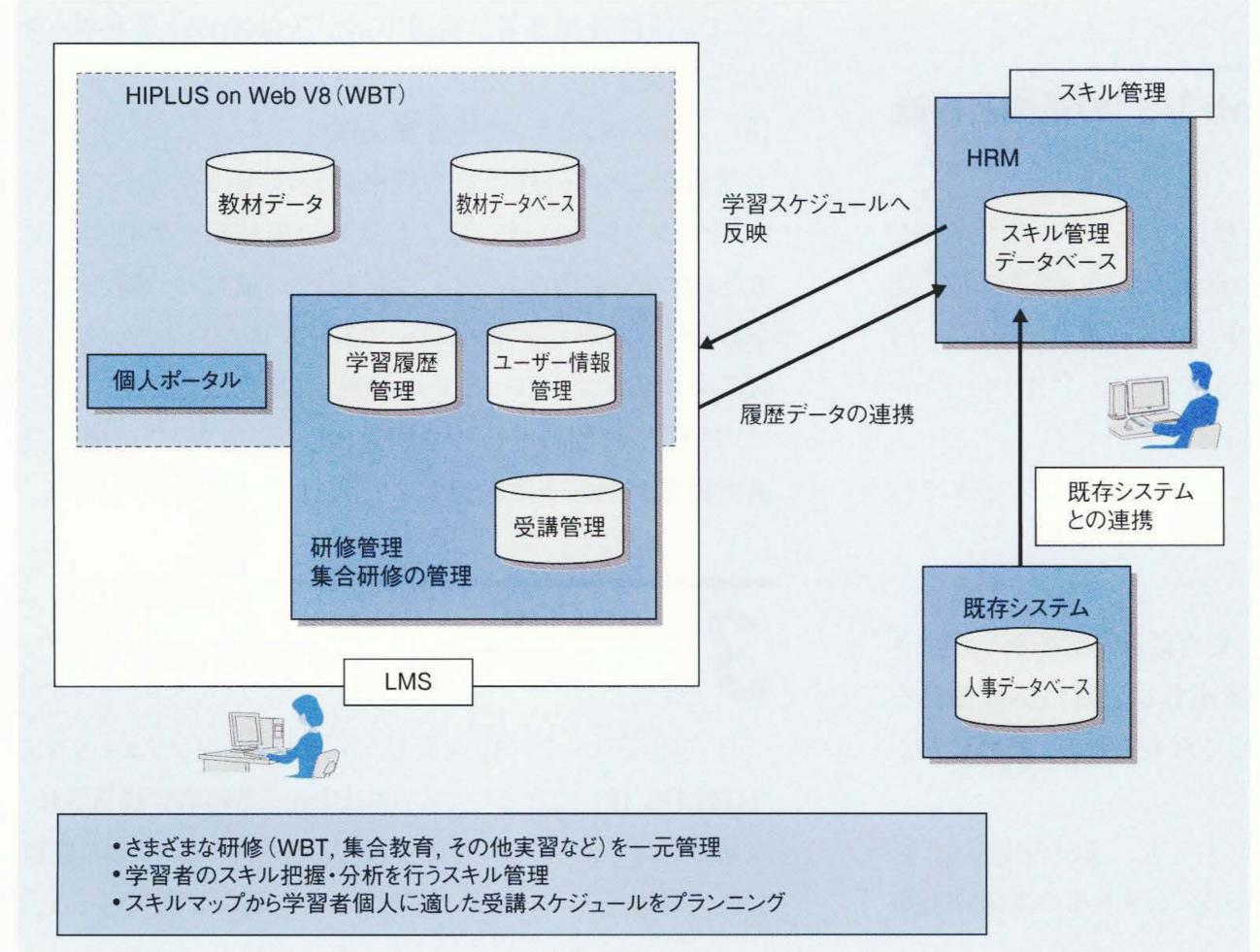
人材開発のための学習・研修管理システム "HIPLUS on Web V8"

Learning Management System for Human Resources Development

吉田 Hiroshi Yoshida

輝 Akira Ônaka 大仲

野村 慎一 Shin'ichi Nomura Mikio Yokoyama



学習・研修管理システム"HIPLUS on Web V8"の構成

HIPLUS on Web V8では、WBTを基 本としたe-ラーニングプラットフォーム上 に、LMS(ブレンディング研修管理)と HRM(人材情報管理)を付加している。

注:略語説明

HIPLUS on Web V8 (Hitachi Performance and Learning Upgrade Support System on Web Version 8) LMS (Learning Management System) HRM (Human Resources Management) WBT (Web-Based Training)

e-ラーニングは、WBT (Web-Based Training)と集 合研修管理が可能なLMS (Learning Management System)や,人材情報管理が可能なHRM(Human Resources Management)との連携を加えた第三世 代に入りつつある。第三世代のe-ラーニングでは、学 習方法の提供だけでなく,人材開発のための総合的 な管理を目的としている。

日立電子サービス株式会社は,この第三世代の考 え方を実装した人材開発のための学習・研修管理シス テム"HIPLUS on Web V8"を製品化した。HIPLUS on Web V8は、これまでのe-ラーニングプラットフォー ムの技術の上に、LMS機能を持ったブレンディング研 修管理を行うものである。現在、HRMのためのスキル マネジメント・コンピテンシー管理支援を開発中である。 これにより、WBT教材や集合研修といったリソースを 一元管理し、企業が社員に求める目標やスキル・コン ピテンシーに基づいた学習計画を提供することができ、 経営戦略に基づいた社員の能力向上と適材適所への 人材配置が可能となる。

はじめに

e-ラーニングは、CD-ROM (Compact Disc Read-Only Memory) 教材などで自習する第一世代, ウェブブラウザを

使ってネットワーク経由で教材を学習するWBT (Web-Based Training)と呼ばれる第二世代を経て、集合教育を含めた総 合的な研修情報を管理するLMS(Learning Management System)と、経験業務や取得技術などの人材情報を管理す るHRM (Human Resources Management)の第三世代へ

と進化を続けている。

日立電子サービス株式会社は、従来のWBTを基本にしたe-ラーニングプラットフォームの上に、LMSを可能とするブレンディング研修管理と、HRMを可能とする人材情報管理を付加した、"HIPLUS on Web V8(Hitachi Performance and Learning Upgrade Support System on Web Version 8)"の製品化を進めている。

ここでは、"HIPLUS on Web V8"の機能と特徴、および 導入による期待効果について述べる。

7 "HIPLUS on Web V8"の構成と機能

"HIPLUS on Web V8"は、WBT,集合研修、実習などのさまざまな研修を対象に、その計画(カリキュラム作成、研修開催案内)から、実行(受講申し込み、承認、学習)、評価、スキル管理までを一貫して行うものである。"HIPLUS on Web V8"による研修の流れを図1に示す。

"HIPLUS on Web V8"では、以下の三つのシステムを提供している。

(1) 研修計画支援

研修管理部門による、WBT、集合研修、実習など、さまざまな研修の計画、カリキュラム・講座作成、研修開催案内を支援する機能を持つ。また、教室や教材などの、研修にかかわるリソースの管理も行う。

また, 受講者からの受講申請に対応し, 講座の定員などを 勘案した受講調整機能を持ち, 研修管理業務の高能率化を 支援する。

(2) ブレンディング研修支援

従来の集合研修や、実習とWBTによる研修を組み合わせたものを「ブレンディング研修」という。ブレンディング研修支援

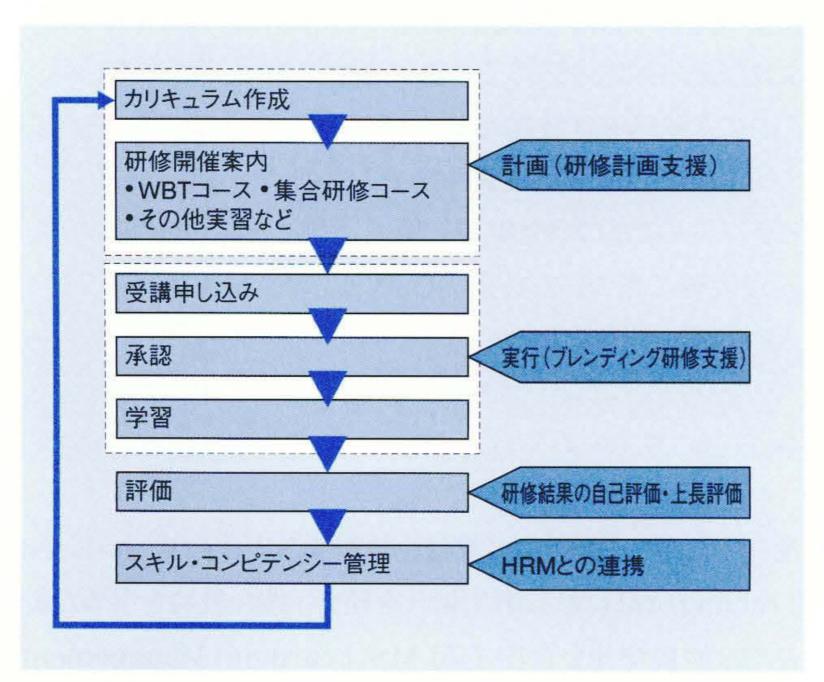


図 1 HIPLUS on Web V8の研修イメージ

HIPLUS on Web V8では、WBT、集合研修、実習などのさまざまな研修を対象に、その計画から実行、評価、スキル管理までを一貫して実現することができる。

では、WBTによるオンライン研修実施に加え、集合研修などの予定と結果を一元管理することができる。

全研修の入口である「研修ポータル」では、受講者に合わせた研修メニューやコミュニケーションツールを表示するとともに、指導者からのメッセージや「お知らせ」を一元表示することにより、受講者の学習に対するモチベーションを維持し、学習効果を高める。

研修ポータルに表示された各人向けの研修の開講案内を基に受講者が受講申し込みを行い、上長がそれを承認することで、研修管理部署に受講申請が送付される、簡易ワークフロー機能を持っている。

(3) スキル・コンピテンシー管理支援

受講者ごとの研修履歴や資格取得状況の管理,スキル・コンピテンシーの自己評価,上長の評価結果が管理できる。また,業務に必要なスキル・コンピテンシー項目の一覧と,それを修得するための研修メニューの対応を可能にする。受講者個人のスキル・コンピテンシーの状況と,業務に必要なスキル・コンピテンシー間のギャップを明確にし,受講者ごとの研修受講計画をナビゲートすることにより,人材のスキルアップを図る。

了 "HIPLUS on Web V8"の特徴

日立電子サービス株式会社のe-ラーニングソリューション "HIPLUS"は、現在までに約200社を超える顧客に導入され、成果を上げている。"HIPLUS on Web V8"では、この豊富な運用経験を基に、研修管理部門での運用を容易にし、受



図2 研修ポータルの画面例

研修ポータル画面では、受講中の研修メニューが表示され、受講計画に応じた研修の受講申し込みを行うことができる。また、受講中の研修については、その進捗(ちょく)状況に応じて、管理者からのメンタリングやフォローのためのメッセージが表示される。

講者にとってわかりやすいシステムとした。その特徴は、以下 のとおりである。

(1) 個人ポータル

受講者がウェブブラウザから"HIPLUS on Web V8"シス テムに入ると、各受講者に対応した研修ポータルが表示され る。研修ポータルは、すべての研修への入口であり、受講者 が現在受講中の研修メニューのほか、各受講者に応じた研 修の開講案内が表示され、ひとりひとりの受講計画に応じた 申し込みが可能である。また、受講中の研修については、そ の進捗状況に応じて、管理者からのメンタリング(指導)や フォローのためのメッセージが表示される(図2参照)。

研修管理者についても,各管理者に応じたポータル画面 が表示され、受講者からの受講申請の処理や、質問への回 答などの業務が効率的に行える。

(2) ブレンディング研修管理

ブレンディング研修は, 研修カリキュラムでの事前学習を WBT化し、基礎知識を自学自習によってあらかじめ習得さ せ、受講者の学習内容が一定レベルに達してから集合研修 を実施することにより、集合研修での研修効果を高めるととも に,集合研修の期間を短縮し,効率的で質の高い研修を目 指すものである。

"HIPLUS on Web V8"では、従来のWBTによる研修に 加え、集合研修や実習などを組み合わせたブレンディング研 修の予定と実績を一元的に管理することができる(図3参照)。

(3) スキル・コンピテンシー管理

企業での各業務を遂行するうえで必要なスキル・コンピテン シーを明確にするとともに、ブレンディング研修の履歴と自己 評価, 上長評価を基に, 各受講者がどの程度のスキル・コン ピテンシーを持っているのかを管理する。ブレンディング研修で の受講者の学習進捗状況と学習履歴情報は, あらかじめ定 義されたマップに基づき、各受講者のスキル・コンピテンシーの レベルに変換される。

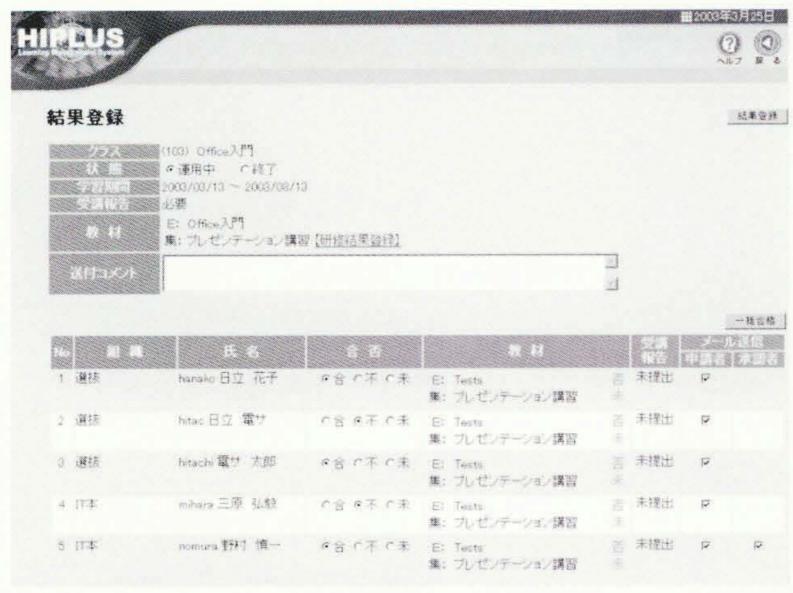


図3 ブレンディング研修管理の画面例

従来のWBTによる研修に加え、集合研修や実習などを組み合わせたブレンディン グ研修の予定と実績を一元的に管理することができる。

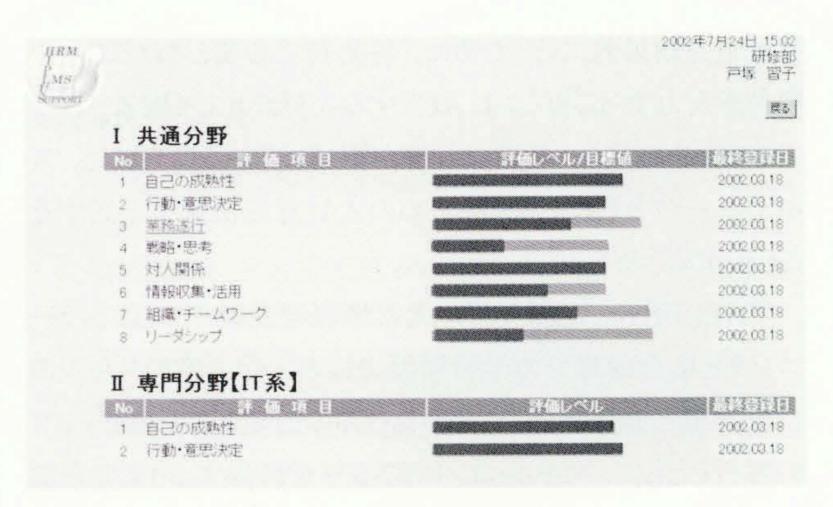


図4 スキルギャップ表示の画面例

業務に必要なスキルと、各受講者が持っている情報の差異は、スキルギャップとし て明確に表示される。

業務に必要なスキル・コンピテンシーと、各受講者が持って いる情報の差異は、スキルギャップとして明確に表示される (図4参照)。管理者は、このスキルギャップを埋めるための研 修計画を考えることにより、効率的な人材育成が期待できる。

"HIPLUS on Web V8"がもたらす 期待効果

4.1 教育の効率化と充実

e-ラーニングを導入する目的の一つに、限られた予算での 教育の充実がある。集合研修による受講者の移動や, 教室 などの資源の維持にかかるコストを削減するとともに、ウェブ によっていつでもどこでも学習が可能なようにすることで、学習 機会を増大させる。一方, e-ラーニングを導入しても管理を行 わない場合、自主的に学習してレベルアップする受講者層と, まったく学習しない受講者層の二極化が進むという問題が発 生している。教育の効率化と充実を図るためには,自主的に学 習しない受講者層を、いかに発生させないかが課題となる。

"HIPLUS on Web V8"では、研修のための個人ポータル を提供することにより、各受講者に応じた研修メニューを提示 し、必要な情報に一度にアクセスすることができる。個人ポー タルでは、個別に受講する必要がある講座のほか、受講を促 す管理者からのメッセージや連絡事項も提示する。e-ラーニン グでは、学習の進捗が遅れている受講者へのメンタリングや フォローが重要であり、それを行うことによって教育効果が高 まる。今後は、受講者の学習履歴と進捗状況を判断し、自 動的にメンタリングメッセージを発行する機能を加えていく考え である。

4.2 人的資源の把握・育成・活用

e-ラーニングの導入により、受講者の学習履歴、進捗状況、 成績の一元的な管理が可能になる。そのため、これらのデー タを応用し、社内の人的資源の把握、育成、有効活用につ なげていきたいというニーズが生じてくる。例えば、社内の人 材配置を効果的に行うために、各業務で必要とされるスキル 要件を入力することにより、該当する人材が正しく配置されて いるのかを把握し、必要な人材が不足している場合には、ス キルギャップとそれを埋めるための人材育成計画を立案する ことが求められる。

"HIPLUS on Web V8"の人材情報管理機能では, e-ラー ニングと集合研修での学習履歴のほか, 受講者のスキルの 自己評価と上長評価, スキルレベルの設定とスキルギャップ の解析とともに、スキル・コンピテンシーを修得するうえで必要 になる学習オブジェクト(対象)の管理が行える。今後は、各 受講者が業務で求められるコンピテンシーと現状のスキルに 基づいたスキルギャップを明確にするとともに、各受講者に適 したラーニングパス(学習道標)を自動的に提示する「受講計 画ナビゲータ」を提供していく。

4.3 業務の効率化と業績向上

e-ラーニングを日常の業務の中で活用し、業務の効率化と 業績向上へつなげていくという考え方は以前から存在してい たが、業務に直結した新鮮なe-ラーニングコンテンツを、いか に短期間で制作し、提供するかが課題であった。

"HIPLUS on Web V8"では、従来の教材オーサリング機 能のほかに、既存の電子ドキュメントを基に、ウェブブラウザか

ら簡単にe-ラーニング教材化が図れる機能を加える予定であ る。これにより、日常業務で必要な情報を, e-ラーニングを利 用して迅速に提供するとともに,業務知識の蓄積を可能にす る。将来的には、ナレッジマネジメントとの連携により、学習オ ブジェクトの蓄積,体系化,更新,検索を一元的に管理する ことができるようにしていく考えである。

おわりに

ここでは, 日立電子サービス株式会社の, 人材開発のた めの学習・研修管理システム"HIPLUS on Web V8"の特徴 と, 期待される効果について述べた。

今後も、このシステムの機能のいっそうの充実を図るととも に,新技術の動向を注視し,高い付加価値を持つ新たな サービスと, e-ラーニングソリューションの開発に努めていく考え である。

参考文献

1) 先進学習基盤協議会:eラーニング白書 2002/2003年版, オーム社 (2002.7)

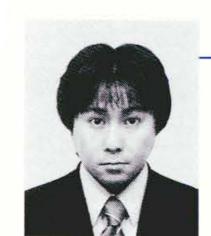
執筆者紹介



吉田 浩

1984年日立電子サービス株式会社入社, ITフィールドサービス 事業本部 ラーニング事業部 ラーニングシステム部 ラーニ ングプラットフォーム開発グループ 所属 現在, e-ラーニングプラットフォーム製品の開発取りまとめ

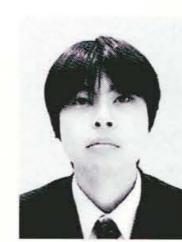
に従事 E-mail: yoshida @ hitachi-densa. co. jp



横山幹男

1987年日立電子サービス株式会社入社, ITフィールドサービス 事業本部 ラーニング事業部 ラーニングシステム部 ラーニ ングプラットフォーム開発グループ 所属 現在, e-ラーニングプラットフォーム製品の開発に従事

E-mail: mikio @ hitachi-densa. co. jp



大仲 輝

2001年日立電子サービス株式会社入社, ITフィールドサービス 事業本部 ラーニング事業部 ラーニングシステム部 ラーニ ングプラットフォーム開発グループ 所属 現在, e-ラーニングプラットフォーム製品の開発に従事

E-mail: ohnaka @ hitachi-densa. co. jp



野村慎一

2001年日立電子サービス株式会社入社、ITフィールドサービス 事業本部 ラーニング事業部 ラーニングシステム部 ラーニ ングプラットフォーム開発グループ 所属 現在, e-ラーニングプラットフォーム製品の開発に従事

E-mail: nomushin@hitachi-densa.co.jp